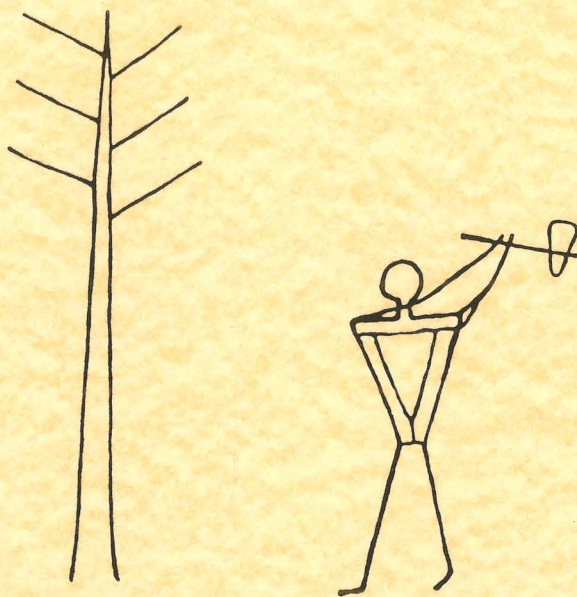


太田字八幡採集の磨製石斧

—太子町太田在住の山本 隆氏採集による—



1995年2月

太子町教育委員会

例言

1. 本書は、平成4年6月16日揖保郡太子町太田字八幡において、同町太田在住の山本隆氏により採集された大型蛤刃磨製石斧の調査報告書である。
2. 遺物の調査・整理にあたっては、山本 隆・岩村千穂・小山真紀各氏の協力を得た。
3. 本書の執筆・編集は、三村修次・海野浩幸が担当した。

目次

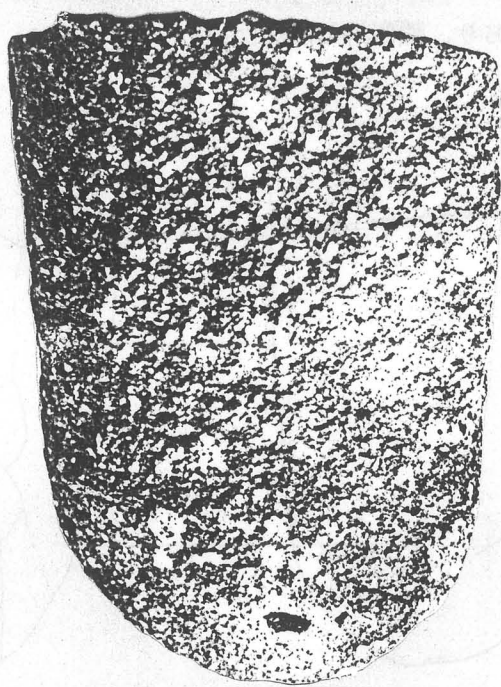
1 遺物の概要	1
2 まとめ	2

挿図目次

第1図 遺物採集位置図	1
第2図 遺物実測図	1

図版目次

図版1 採集遺物	
----------	--



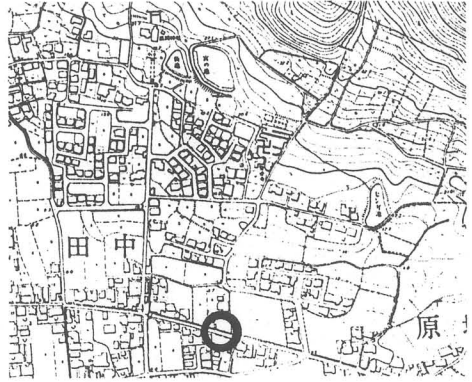
採集石斧

1 遺物の概要

今回報告する遺物は、太子町太田在住の山本隆氏により平成4年6月16日、自宅畑の土中より採集されたものである。この畑の土は、同町太田字八幡に所在する八幡神社西北の宅地造成地の残土を運んできたものとのことである。

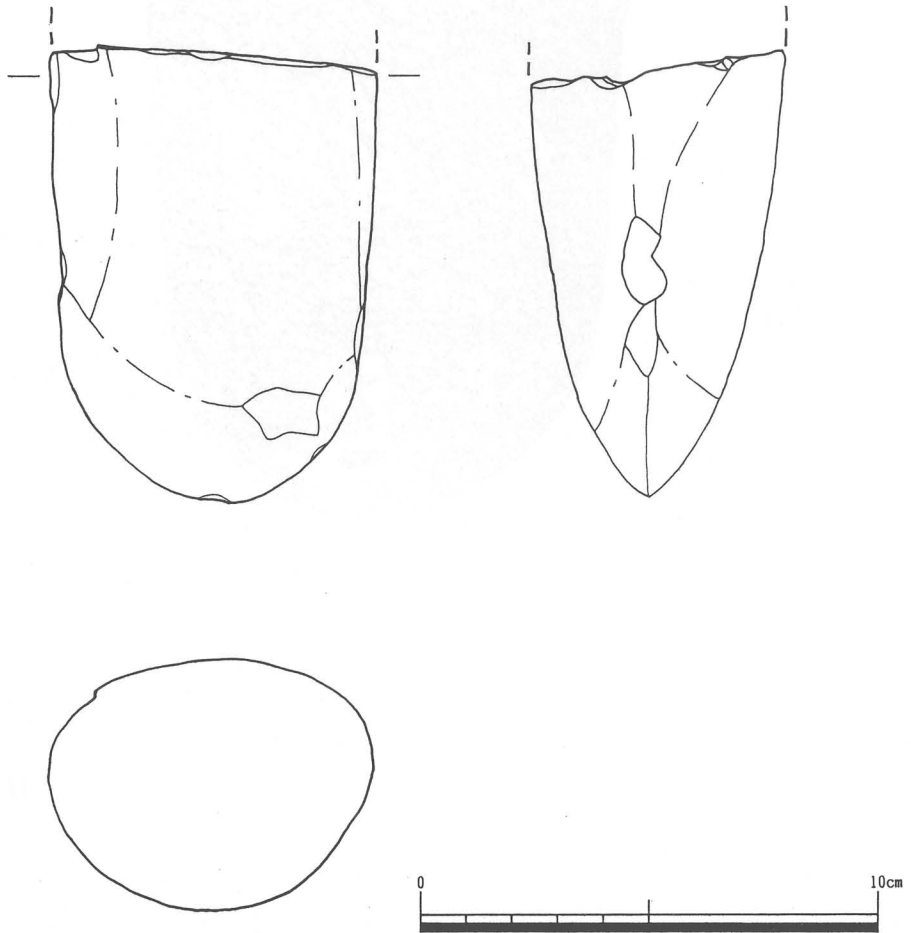
採集遺物は、太型蛤刃磨製石斧の破片で、中央部付近で破損しており遺存長9.7cm、幅7.2cm、厚さ5.6cmを測る。石材は、凝灰角礫岩製でオリーブ灰色(7.5Y6/2)を呈する。

全体に風化が進んでおり、製作時の研磨面は殆ど残っていない。



第1図 遺物採集位置図

(1:10,000)



第2図 遺物実測図

2 まとめ

この石斧の出土状況が搬入土からであり、遺構に伴うもので無いのが残念であるが、出土地周辺は弥生から古墳時代にかけての太田・田中遺跡の範囲内にあたることから、同遺跡の弥生時代を考えるうえでの貴重な遺物である。

最後ではあるが、遺物の調査に快く応じていただいた山本 隆氏に記して感謝したい。

参考文献

- 金関 恕・佐原 眞(編集) 1985 『弥生文化の研究 5 道具と技術 I』 雄山閣出版株式会社
- 種定淳介・丸山 潔・丹治康明・前田佳久・山本雅和・篠宮 正・甲斐昭光 1992 「弥生の石器の始まり(第I部)兵庫県」『第31回埋蔵文化財研究集会 弥生時代の石器—その始まりと終わり—』埋蔵文化財研究会関西世話人会

